



病理部・病理診断科とは

手術や生検で採取し提出された検体を、病理標本にして診断する科です。
臨床科に比べて患者様と関わる時間は少なめですが、
病理診断を通して、患者様の人生に大きく関わる仕事です。

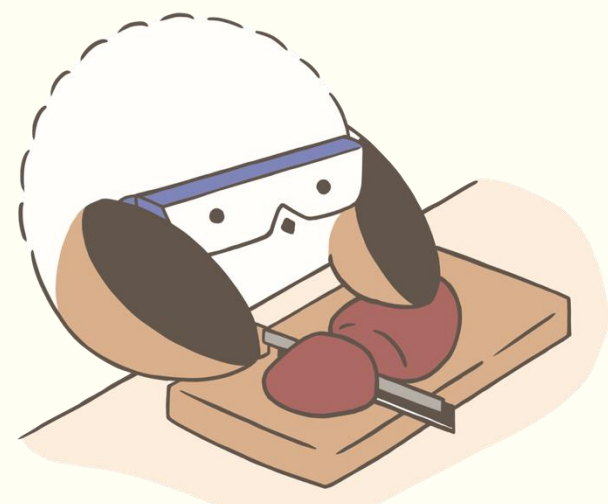


病理医の仕事

・切り出し

担当医が日替わりで、臨床科から提出されてホルマリン固定された検体に刃を入れ、断面などを写真として撮影し、記録を残します。その断面の中から、病理標本にする部分を選び、標本用のサイズ分切り取ります。提出された検体の量や種類によってかかる時間は大きく変わりますが、平均して午前中いっぱいばかりです。

きりだしえなが



・術材診断

切り出した検体が数日後に病理標本としてできあがったら、検体提出から12営業日以内に診断します（土日祝日は日数としてカウントしません）。病理専門医資格を持っていないうちは、上級医のチェックが必ず必要になるため、余裕を持って診断する必要があります。

12にちめてーしゅつえなが



12にちめてーしゅつされたえなが



・生検診断

担当医が日替わりで、大腸ポリープなどの小さな検体をまとめて診断します。その日の切り出しと同じ医師が担当することが多いです（午前中は切り出し、午後からは生検診断）。生検の検体は技師さんが既に標本にした状態で提出してくれます。生検は検体提出から3営業日以内に診断します（土日祝日は日数としてカウントしません）。病理専門医資格を持っていないうちは、診断後、上級医にチェックしてもらいます。

1 2 3
金・月・火

3にちえなが

・術中迅速診断

担当医が日替わりで、手術中の患者様から取り出された検体で標本を作製し、提出から30分以内に診断します。その結果次第で手術のその後の方針が決まるので、とても緊張感があります。難しい症例は複数人の病理医で検討します。

圧えなが



圧えなが

・剖検

きんちょーえなが

剖検の依頼が臨床医からあれば、原則その日の内に、日替わりの担当医と専攻医が病理解剖を行います。依頼された時間が午後3時以降の場合は翌日に行い、また、土日祝日は剖検を行いません（ご遺体は冷蔵保存しています）。解剖で取り出した臓器を担当医が切り出し、標本化して診断します。その結果を臨床医とのカンファレンス（CPC）で発表します。

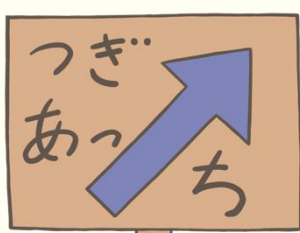
かんふぁえなが



・その他

臨床医との症例カンファレンスで病理学的解説をしたり、個別に病理学的な相談に乗ったりします。また、学生さんに病理学の指導や勉強会も行います。学会発表や論文投稿も積極的に行っています。

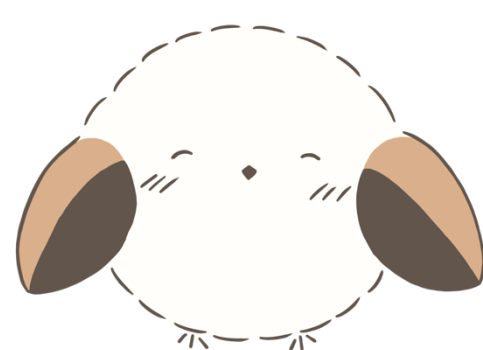
あっちえなが



最後に

仕事が楽で早く帰れるとか、無責任なことは申し上げません。

仕事を楽にこなせる あなたになれるまで、我々は責任を持って鍛え上げます。



とぅらとぅらとぅらえなが

1日の流れの例（専攻医）



月 札幌に外勤で1日お留守
木 午前中いっぱい切り出し、午後から生検診断
金 前日に診断がつかなかった生検の診断＋他の診断

火水金は切り出した手術検体の診断、術中迅速診断、カンファレンス準備/発表などを並行して行います。突然の剖検依頼もあり、流動的なところもあります。

当科の特色

- ・病理診断も病理の研究も両方経験できます。最近は身体の組織を透明化する方法の研究を他施設と合同で行っています。
- ・上級医と相談しやすい環境を意識しています。在籍スタッフの年齢層も幅広く、居心地が悪くならないように努めています。こわい先生はみんな嫌です。
- ・他施設との繋がりが豊富です。特殊な分野に関して、よその病理施設に勉強をしに行くことも可能です。
- ・（日本一有名な病理医）市原真先生が准教授として所属しています。
- ・学会発表や論文投稿のサポートが手厚く、予行会や校閲は科総出で行います。学生さんの学会発表のサポートも行っており、指導学生さんの受賞経験もあります。
- ・固定の指導医を定めていないので、上級医それぞれの指導を受けることができます。
- ・幅広い臓器の病理診断が可能です。特に脳腫瘍や間質性肺炎は、病理診断自体を行っていない施設もあるので貴重です。最終的にどの病理施設でも通用する、オールラウンドな病理医になれます。
- ・学生さん相手の抄読会など、大学としての教育的な面もあります。

おーるらうんどえなが



キャリアアップの一例



一般社団法人 日本病理学会ホームページより

・病理医として活躍するにはとにかく専門医資格が必要です。まず専門医試験に合格するのに必要な実力を専攻医の内に培います。一番重要なのが剖検で、現在全国的に剖検数自体が減少傾向であり、いかに剖検症例の経験を積んでいくかが、専攻医プログラムの肝になります。

・専門医資格を取得するために必要な経験を踏む上で、自分が興味のある分野が自然と見えていきますので、資格取得後はそれを活かした道を選べます。

例えば、希少な悪性腫瘍が得意な病理医になるために、それらの診療に特化した医療施設で経験を積む。

口腔や腎臓など特殊な領域の病理を診るために複数の施設を渡り歩いて勉強する。

人工知能（AI）を活かした病理診断を実現するために、企業と連携して新たな技術の開発に勤しむ。

病理診断と並行して、創作活動などの趣味を活かして病理の魅力を発信していく。

など、かなり多様な働き方ができます。

あなたのキャリアは あなた次第です。